

2022年3月期 第1四半期 決算電話カンファレンス 主な質疑応答記録

日時:2021年7月28日(水) 12:00 ~ 13:00

出席者:代表取締役 専務執行役員 経営企画本部長 杉村 英男

質問者1:マッコーリーキャピタル証券会社 仲田様

Q1:石炭価格はトン 30ドルくらいの上昇を見込んでいるのでしょうか。足元の石炭価格は、トン 150ドルまで上がっていますが、先々の石炭はどのくらい確保していますか。

A1:仲田様のご認識のとおり、石炭は今後30ドル~40ドルくらいの価格上昇を見込み、年間では45~50億円くらいのコスト増と見ています。現在の石炭のスポット価格が、投入原価に反映されるのは下期からで、2Qまでは価格が高騰する前の石炭を押さえています。

Q2:石炭価格上昇に伴い、セメントの値上げは視野に入れていますが。

A2:当社だけが値上げをできる話ではありませんが、2年前の打ち出し分を引き続き丁寧にお願います。セメントに限らず、他の製品でもエネルギーコストが上昇していますので、収益の維持に取り組まします。

Q3:ウエハメーカーで大型投資を決めたところもありますが、多結晶シリコンの能力増強や価格是正を考えていますか？

A3:ウエハメーカーは活況と聞いていますが、ただちに多結晶シリコンの能力増強ということまでは考えていません。しかし常にその意識は持っています。価格はこれまでに比べると上昇基調にありますので高く売れるところに供給していきます。

質問者2:三菱UFJモルガンスタンレー証券 渡邊様

Q4:放熱材について、先進技術事業化センターの立ち上がりと、窒化ケイ素の売り上げの見通しを教えてください。

A4:先進技術事業化センターの窒化ケイ素は粉末、基板についての立ち上げは計画通りです。今期量産化のための試運転を進めサンプルを出荷します。22年度から営業販売を開始していきたいと考えています。

Q5:法人税の計算で法定実効税率をつかっている背景を教えてください。

A5:繰延税金資産の積み上げ等で税金費用がマイナスになる時は、会計ルールで四半期決算では法定実効税率を使用することになっているためです。

質問者3:みずほ証券 吉田様

Q6:ICケミカルは減益となったようですが、原料価格転嫁は今後できるのでしょうか。台湾のJVは予定通り稼働するのでしょうか。

A6:原料のナフサ価格が上昇していますので価格転嫁を進めていきます。台湾でのJVは予定どおり来年の操業にむけて進捗しています。

Q7:乾式シリカは国内の CMP 用途でコロイダルシリカに押されていると認識していますが、海外の顧客にはトクヤマ品がマッチしているのでしょうか。

A7:その傾向が強いと聞いています。

Q8:苛性ソーダは海外市況が 340~350 ドルで推移して上がってきています。今後のアジア市況の見方と国内の販売価格はどうなっていますか。

A8:苛性ソーダの価格について、海外市況は持ち直しています。国内の価格は現状維持ですが、石炭価格上昇による電気コストも上昇しているので、さらなる対応を考えています。

Q9:通期のセメントの出荷数量の見込みが、期初より下がっている理由を教えてください。

A9:国内は実態に合わせたことと、輸出は船繰り等が厳しくなったためです。

質問者4 ジェフリーズ証券 東様

Q10:乾式シリカのCMP用途の出荷量が増えたのは今年に入ってからでしょうか？

A10:2021年3月期の第4四半期から海外向けが増え、持続性もありそうです。一般用途も堅調で風力発電の接着剤用途などが伸びてきています。

Q11:発電由来のビジネスで進捗がありましたら教えてください。

A11:カーボンニュートラルが大きなテーマなので、将来的にはバイオマス・木質ペレットなど、様々なことにトライしていきます。現在は発電に関する熱効率・品質・デリバリー・保管・運転技術などの様々なことについて調査・検討を進めています。

質問者5 東海東京調査センター 中原様

Q12:トピックスの半導体関連製品の状況について。この第1四半期では、国内の売上が落ちて、輸出が増えていますが一過性なのでしょうか？

A12:第1四半期は海外からの引き合いが強クウエイト的には海外が増えています、国内のお客様にも従来どおり販売します。

Q13:アジアのVCM、苛性ソーダの市況についてどのように考えていますか。

A13:しばらくこの状態が続くと見えています。VCM は期初には保守的に見ていましたが、思った以上に強いです。苛性ソーダも輸出について足元ではトン300ドルを超える水準なので、その水準を織り込んだ形で見通しを立てています。塩ビ・苛性ソーダは輸出数量を増やそうと取り組んでいます。

以上